

# 大樹町デジタル田園都市構想総合戦略

(第3期 大樹町まち・ひと・しごと創生総合戦略)



令和7年3月

大 樹 町

# 目 次

## 第1章 人口ビジョン

---

1 人口動態分析	2
（1）時系列による人口動態分析	2
① 総人口の推移と将来推計	2
② 年齢3区分別人口の推移	3
③ 出生・死亡、転入・転出の推移	4
④ 総人口の推移に与えてきた自然増減と社会増減の影響	5
（2）年齢5歳階級別の人口移動分析	6
① 男女別・年齢5歳階級別人口移動の状況	6
② 年齢5歳階級別人口移動の長期的動向	7
（3）地域別の社会増減（転入・転出）の状況	9
（4）合計特殊出生率の推移	10
（5）大樹町人口の推計値と実績値の比較	10
2 人口の将来展望	11
（1）目指すべき将来の方向	11
① 現状の課題の整理	11
② 基本姿勢	11
③ 目指すべき将来の方向	12
（2）人口の将来展望	13
① 町独自推計の条件整理	13
② 人口の将来展望	13

## 第2章 総合戦略

---

1 基本的な考え方	16
（1）趣旨	16
（2）総合戦略の位置づけ	16
（3）計画期間	17
（4）推進体制	17
（5）国の「デジタル田園都市国家構想総合戦略」の概要	17
（6）持続可能な開発目標（SDGs）の達成に向けた施策の推進	18
2 総合戦略の基本方針	19
（1）本町の地域ビジョン	19
（2）第6期大樹町総合計画の施策との関連	19
（3）DX（デジタル・トランスフォーメーション）の推進	20
基本目標1 共に支え合い安心して暮らせるまち	21
基本目標2 誰もが学び続けられるまち	23
基本目標3 豊かな資源を活かし挑戦を続けるまち	25
基本目標4 美しい自然と共生する持続可能なまち	27
基本目標5 地域共創やデジタル化が進むまち	29

# 第1章

## 人口ビジョン

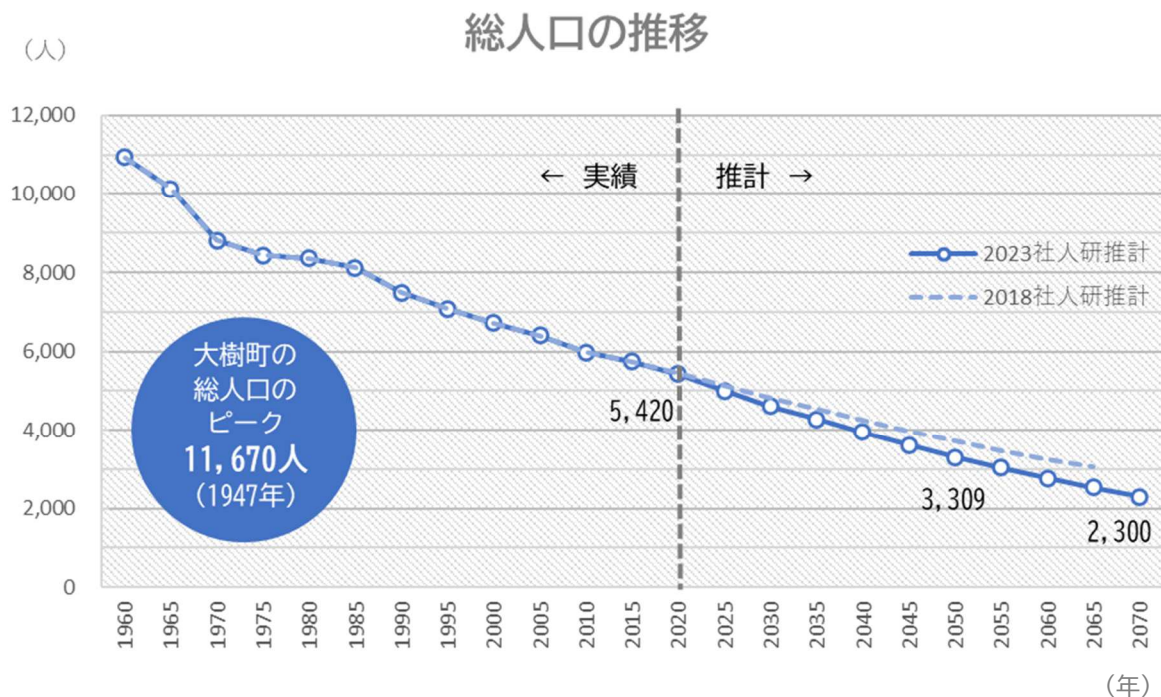
# 1 人口動態分析

過去から現在に至る人口の推移を把握し、その背景を分析することにより講ずべき施策の検討材料を得ることを目的として、時系列による人口動態や年齢階級別の人口推移分析を行います。

## (1) 時系列による人口動態分析

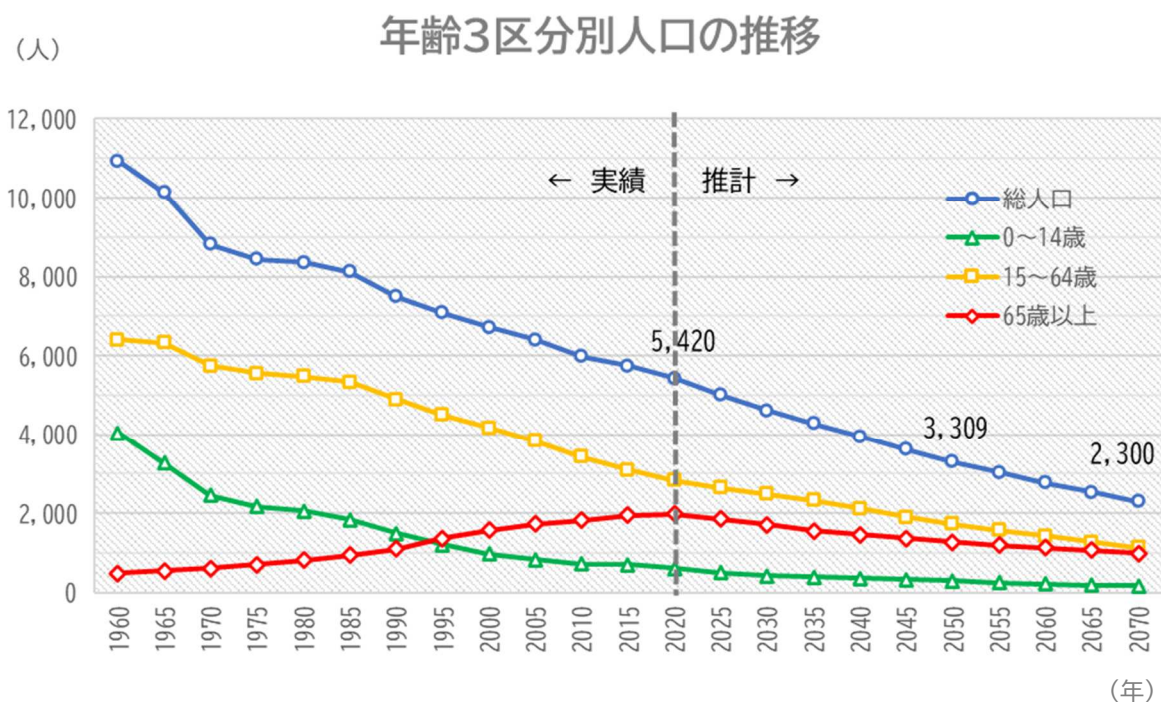
### ① 総人口の推移と将来推計

- ・ 大樹町では、昭和 22（1947）年の臨時国勢調査をピークに、旧大津村西部地区の編入による一時的な増加はあったものの、昭和 45（1970）年までの高度成長期に人口が大きく減少、その後一時的に横ばい状態でしたが、昭和 60（1985）年以降人口減少が続いており、令和 2（2020）年には、5,420 人となっています。
- ・ 国立社会保障・人口問題研究所（以下、「社人研」という。）の推計によると、今後も人口は減少を続け、令和 32（2050）年には 3,309 人（令和 2 年から約 38.9%減少）に、令和 52（2070）年には 2,300 人（同約 57.6%減少）になるものとされています。
- ・ 第 2 期総合戦略における総人口推移（2018 社人研推計）と比較し、人口減少がやや加速する傾向にあるとされています。



## ② 年齢3区分別人口の推移

- ・ 大樹町では、生産年齢人口、年少人口は長期的には減少傾向が続いています。
- ・ 一方、老年人口は生産年齢人口が順次老年期に入るとともに、平均寿命も伸びていることから、一貫して増加を続けていましたが、近年は横ばいから減少傾向となっています。

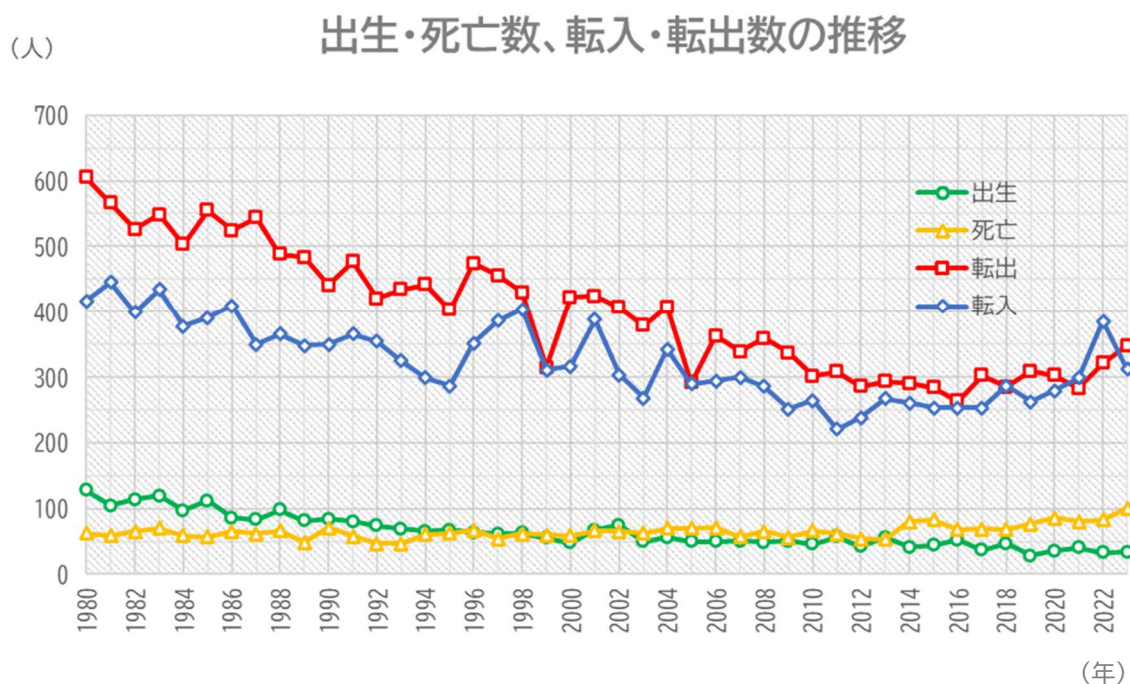


区 分	2020年	2030年	2040年	2050年	2060年	2070年
年少人口 (0～14歳)	612人 11.3%	422人 9.1%	366人 9.3%	295人 8.9%	219人 7.9%	174人 7.6%
生産年齢人口 (15～64歳)	2,825人 52.1%	2,479人 53.8%	2,117人 53.7%	1,737人 52.5%	1,431人 51.6%	1,138人 49.5%
老年人口 (65歳以上)	1,983人 36.6%	1,711人 37.1%	1,462人 37.1%	1,277人 38.6%	1,124人 40.5%	988人 43.0%
合 計	5,420人	4,612人	3,945人	3,309人	2,774人	2,300人

※端数処理により合計が一致しない場合があります。

### ③ 出生・死亡、転入・転出の推移

- ・ 大樹町の自然増減（出生数－死亡数）を見ると、出生は出生率低下・母親世代人口の減少の影響で一貫して減り続けましたが、平成 7（1995）年までは出生が死亡を上回る「自然増」でした。
- ・ 平成 8（1996）～平成 14（2002）年は自然増減を繰り返し、平成 15（2003）年以降は平成 25（2013）年を除き死亡数が出生数を上回る「自然減」の状況になっています。
- ・ 社会増減（転入数－転出数）については、転入・転出ともに年による変動はあるものの、ほぼ一貫して転出超過の「社会減」の状況が続いていますが、一方で、近年では平成 30（2018）年、令和 3（2021）年、令和 4（2022）年に転入が転出を上回る「社会増」となる年も出てきました。



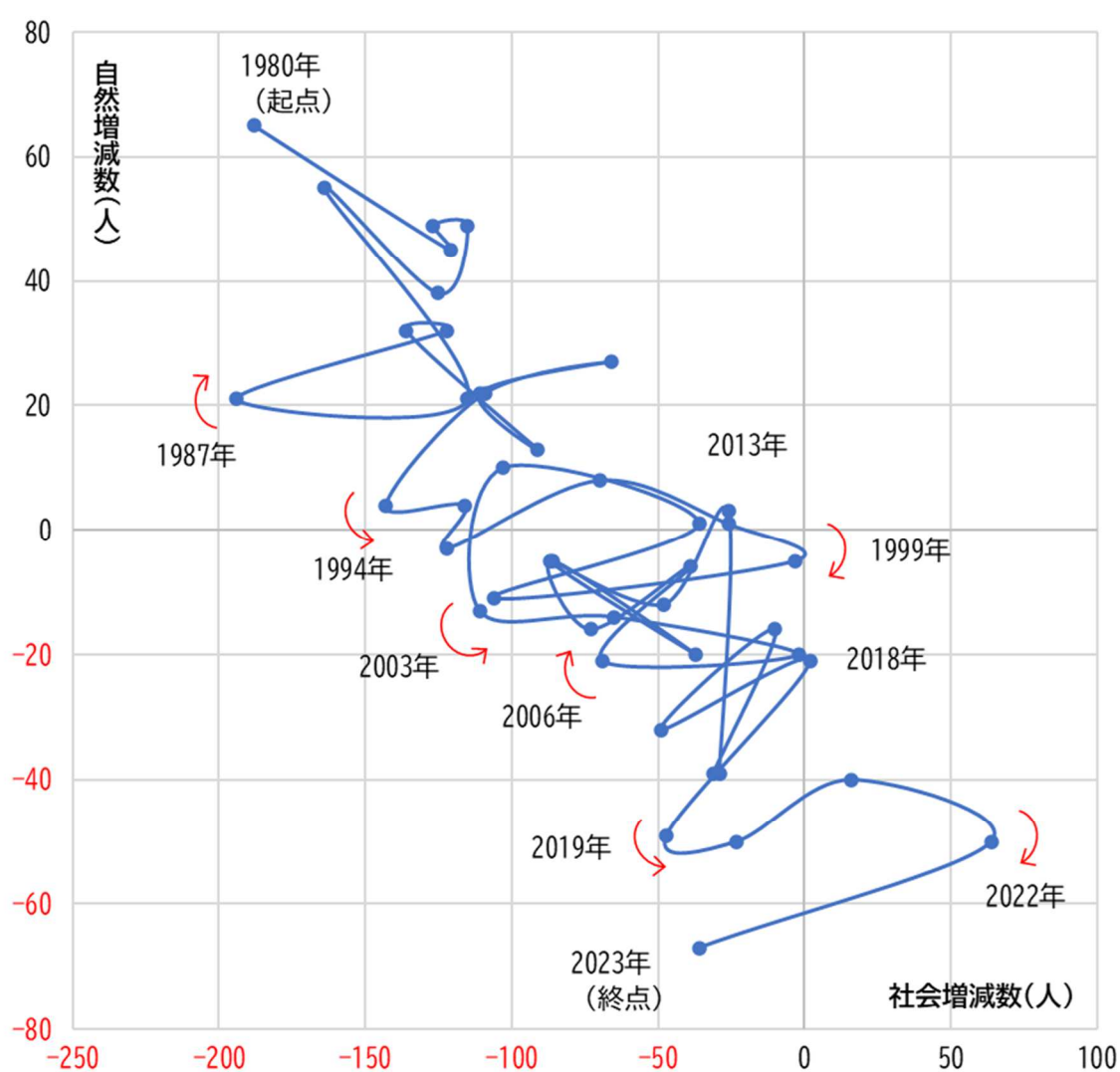
※住民基本台帳に基づく人口、人口動態及び世帯数に関する調査参照（総務省）

※2012 年までは年度末時点、2013 年からは翌年 1 月 1 日時点の数値

※2013 年以降は総人口に外国人数も含む

#### ④ 総人口の推移に与えてきた自然増減と社会増減の影響

- ・ 昭和 55 年（1980）年以降、自然増減は年により変動又はわずかな減となる年はあるものの概ね自然増の状況でしたが、平成 15（2003）年以降は自然減の状況となっています。一方、社会増減は一貫して社会減が続いていましたが、近年では社会増となる年も出てきています。
- ・ 昭和 55（1980）年代から一貫して社会減が自然増を上回り人口減少が続き、平成 15（2003）年以降は社会減と自然減により、さらに人口減少が続いています。
- ・ 令和 4（2022）年には、若干ではあるものの社会増が自然減を上回り、人口増加に転じましたが、令和 5（2023）年には再び人口減少に転じています。

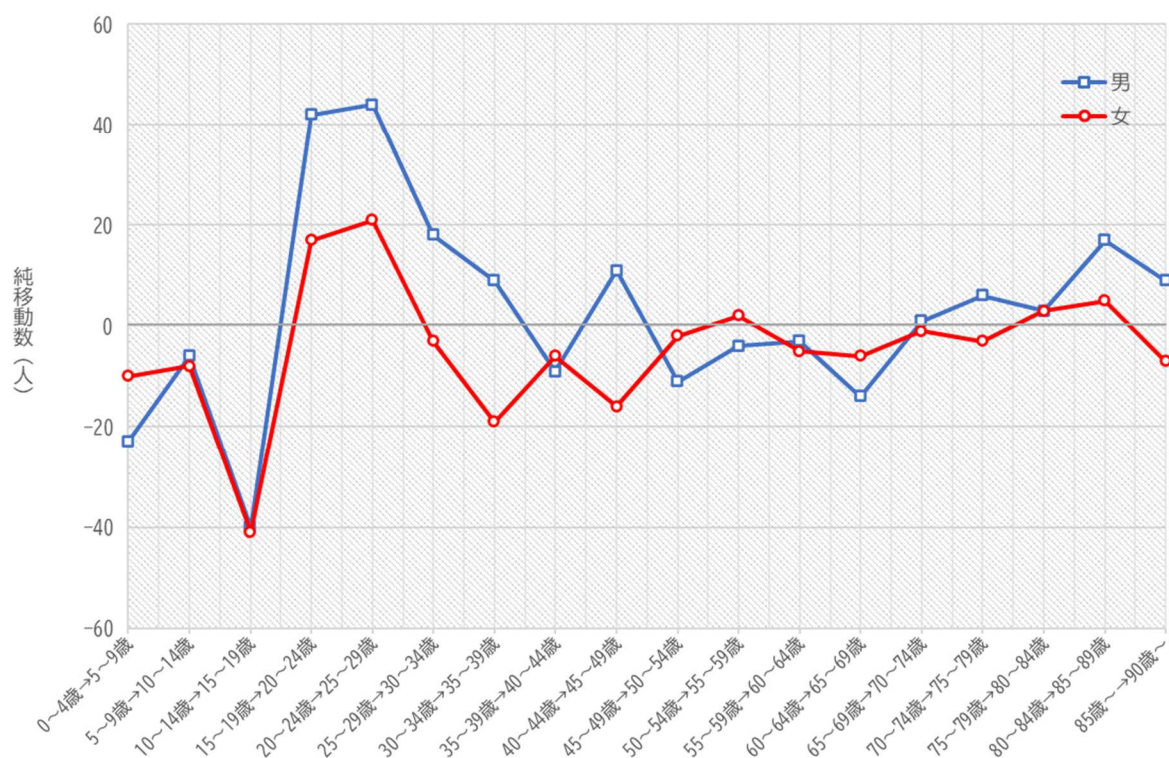


## (2) 年齢5歳階級別の人口移動分析

### ① 男女別・年齢5歳階級別人口移動の状況

- ・ 大樹町の男性、女性ともに、10～14 歳から 15～19 歳になるときに大幅な転出超過となっています。
- ・ 一方で、15～19 歳から 20～24 歳、20～24 歳から 25～29 歳になるときに、逆に大幅な転入超過となっています。
- ・ これらは、高校・大学等への進学に伴う転出、大学卒業後の UIJ ターン就職に伴う転入の影響が考えられます。
- ・ また、女性については、20 代後半から 40 代の子育て世代において再び転出超過に転じています。

男女別・年齢階級別の人口移動の推移(2015年→2020年)

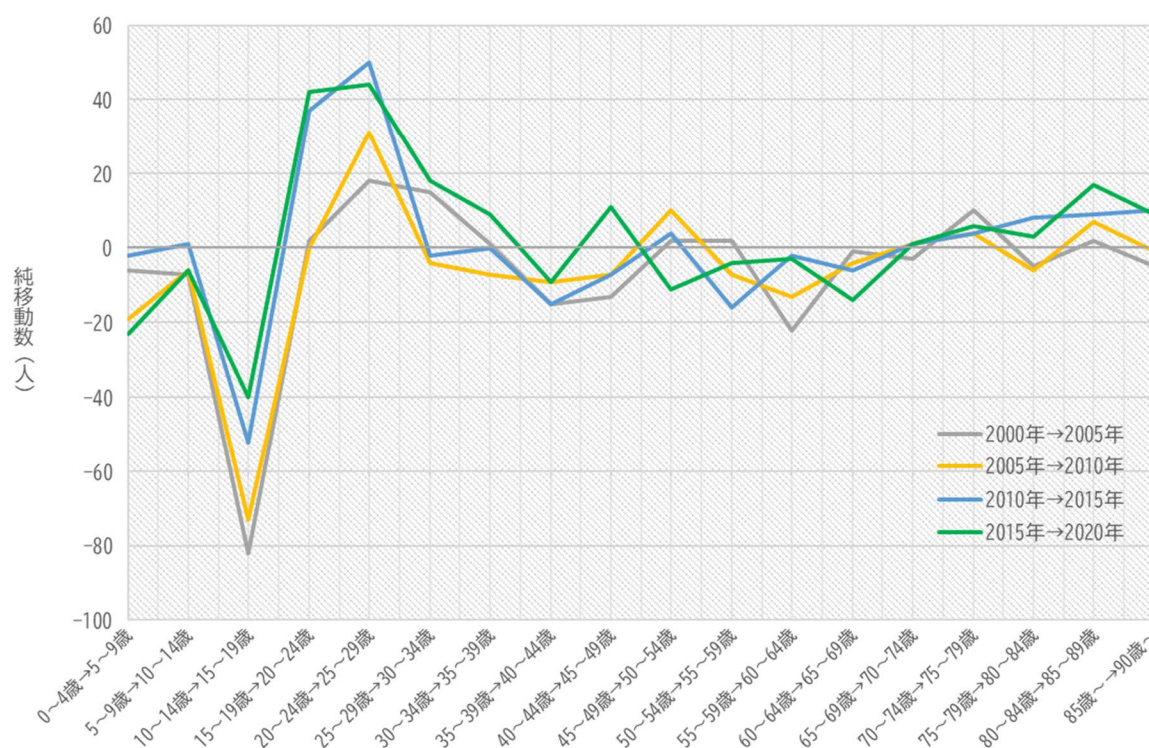


## ② 年齢5歳階級別人口移動の長期的動向

### 【男性】

- ・ 10～14歳から15～19歳になるときに見られる大幅な転出超過は、長期的な動向においても同様の傾向が見られます。
- ・ 一方で、20～24歳から25～29歳になるときに見られる転入超過についても、長期的に同様の傾向が見られます。
- ・ この2つの大きな山を見ると、2010年ごろまでは10代後半から20代前半の若者世代の長期的な流出が続いていたが、2010年以降はその幅が抑えられている傾向があります。
- ・ また、2010年以降、70代以降において転入超過となる傾向が見られます。

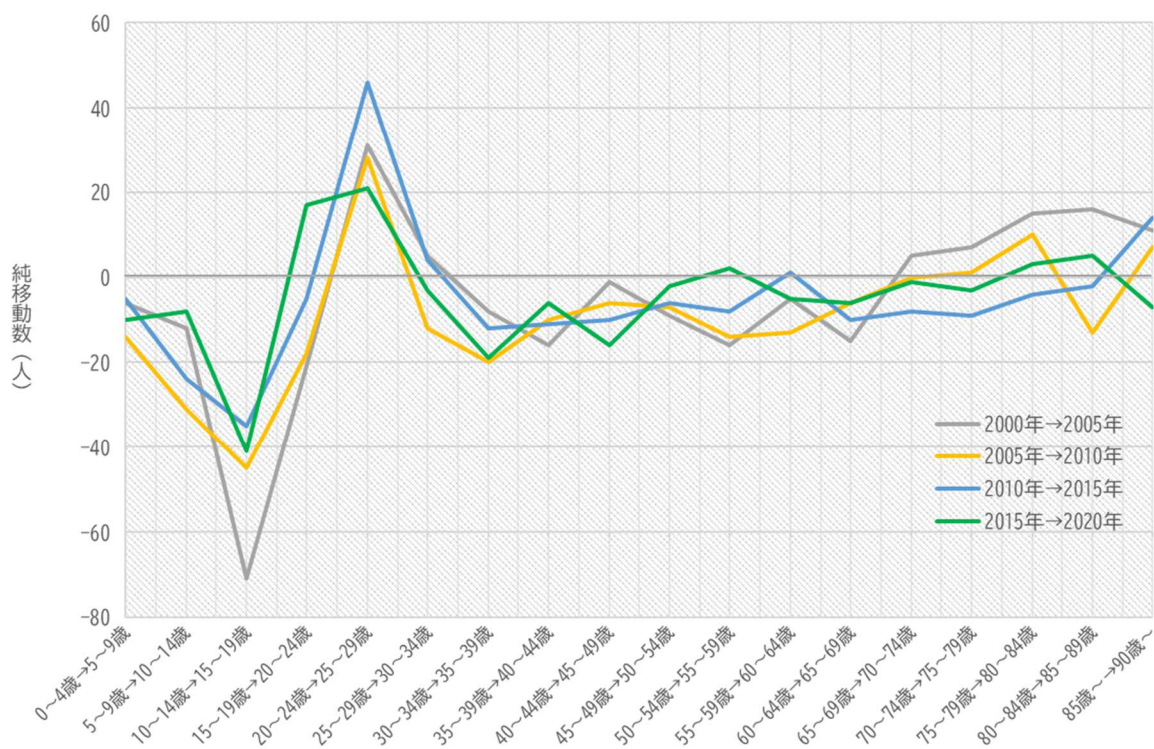
年齢階級別人口移動の推移(男性)



### 【女性】

- ・ 10～14 歳から 15～19 歳になるときに见られる大幅な転出超過は、長期的な動向においても同様の傾向が見られます。
- ・ 転出超過数は縮小傾向にありますが、これは総人口の減少に比例して縮小されたものと考えられます。
- ・ 一方で、20～24 歳から 25～29 歳になるときに见られる転入超過についても、長期的に同様の傾向が見られます。
- ・ 依然として 10 代後半から 20 代前半の若者世代の長期的な流出は続いています。
- ・ 30 代以降では、ほぼ転出超過の状況となっているが、80 代以降で転入超過となる状況も見られます。

年齢階級別人口移動の推移(女性)



### (3) 地域別の社会増減（転入・転出）の状況

令和4（2022）年及び令和5（2023）年の2年間における地域別転入・転出状況をみると、北海道内では転出超過となっていますが、道外及び国外・その他においては転入超過となっていることが分かります。

また、十勝管内では転入・転出ともに帯広市や広尾町が多くなっています。

道内においては札幌市、道外においては東京圏における転入・転出が多い状況となっています。

大樹町の地域別転入転出状況

転入元・転出先	転入元				転出先				差引 (転入－転出) ※2年合計
	人数			構成比	人数			構成比	
	R4	R5	合計		R4	R5	合計		
十勝総合振興局管内	98	87	185	26.4	133	129	262	39.5	▲ 77
帯広市	35	39	74	10.6	71	49	120	18.1	▲ 46
音更町	15	5	20	2.9	6	8	14	2.1	6
士幌町	3	1	4	0.6	2	2	4	0.6	0
上士幌町	0	3	3	0.4	2	1	3	0.5	0
鹿追町	0	0	0	0.0	0	1	1	0.2	▲ 1
新得町	1	0	1	0.1	3	2	5	0.8	▲ 4
清水町	2	0	2	0.3	2	0	2	0.3	0
芽室町	0	4	4	0.6	0	7	7	1.1	▲ 3
中札内村	3	3	6	0.9	4	9	13	2.0	▲ 7
更別村	5	4	9	1.3	10	6	16	2.4	▲ 7
広尾町	16	16	32	4.6	11	25	36	5.4	▲ 4
幕別町	9	5	14	2.0	13	9	22	3.3	▲ 8
池田町	0	2	2	0.3	5	5	10	1.5	▲ 8
豊頃町	4	1	5	0.7	0	1	1	0.2	4
本別町	3	3	6	0.9	4	2	6	0.9	0
足寄町	2	1	3	0.4	0	1	1	0.2	2
陸別町	0	0	0	0.0	0	0	0	0.0	0
浦幌町	0	0	0	0.0	0	1	1	0.2	▲ 1
その他道内	83	75	158	22.6	79	100	179	27.0	▲ 21
札幌市	20	20	40	5.7	30	30	60	9.0	▲ 20
旭川市	9	1	10	1.4	2	2	4	0.6	6
千歳市	5	3	8	1.1	2	3	5	0.8	3
その他	49	51	100	14.3	45	65	110	16.6	▲ 10
道内合計	181	162	343	49.0	212	229	441	66.5	▲ 98
道外	140	86	226	32.3	70	77	147	22.2	79
東京圏	66	29	95	13.6	43	28	71	10.7	24
その他道外	74	57	131	18.7	27	49	76	11.5	55
国外	64	67	131	18.7	35	40	75	11.3	56
合計	385	315	700	100.0	317	346	663	100.0	37

※東京圏：埼玉県、千葉県、東京都、神奈川県 の4都県

※「住民基本台帳人口移動報告」より集計（1月1日～12月31日）

#### (4) 合計特殊出生率の推移

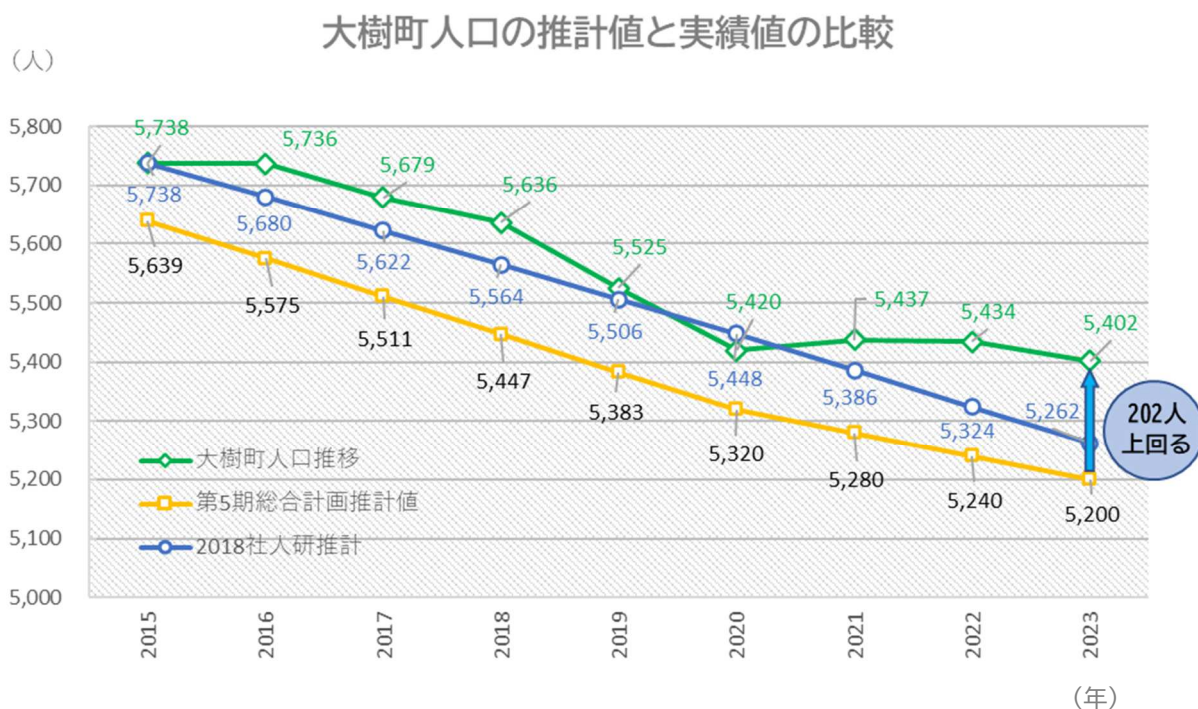
合計特殊出生率とは、15歳から49歳までの女子の年齢別（年齢階級別）出生率を合計したもので、1人の女子が一生の間に産む子供の平均数に相当します。

	1993-1997	1998-2002	2003-2007	2008-2012	2013-2017	2018-2022
<b>大樹町</b>	<b>1.68</b>	<b>1.64</b>	<b>1.48</b>	<b>1.59</b>	<b>1.59</b>	<b>1.52</b>
北海道	1.33	1.24	1.19	1.25	1.30	1.21
帯広市	1.45	1.39	1.27	1.38	1.42	1.29
札幌市	1.18	1.08	1.01	1.08	1.16	1.09
東京都	1.13	1.06	1.05	1.11	1.22	1.11
全 国	1.42	1.36	1.26	1.38	1.43	1.33

※人口動態保健所・市区町村別統計「バイズ推定値」より

#### (5) 大樹町人口の推計値と実績値の比較

第5期大樹町総合計画（2014年-2023年）における人口推計値及び第2期総合戦略における総人口推移（2018社人研推計）と実際の大樹町の人口推移を比較すると、2015年以降では概ねそれぞれの推計値を上回る状況で推移しており、直近の2023年では、第5期総合計画推計値と比較すると202人、2018社人研推計値と比較すると140人上回る結果となっています。



## 2 人口の将来展望

人口の現状と課題を整理し、人口に関して目指すべき将来の方向性を提示するとともに将来の人口等を展望します。

### (1) 目指すべき将来の方向

#### ① 現状の課題の整理

全国的な人口減少社会の中で、大樹町においては、1950年代から人口減少が続いており、令和2（2020）年の総人口はピークであった昭和22（1947）年と比較して約54%の減少となっています。今後も人口は減少傾向で推移する一方で、総人口に占める年少人口の割合は微減、老年人口の割合は微増となると予想されており、今後も少子高齢化が進むことに留意する必要があります。

年齢階級別の人口移動をみると、男性・女性ともに10～14歳から15～19歳になるときに大幅な転出超過となる一方、15～19歳から20～24歳になるときに大幅な転入超過となっています。転出先については帯広市や札幌市、東京圏への転出が多くなっており、若者世代においては高校・大学等への進学に伴う転出が大きくなっているものと考えられます。また、30代から40代の子育て世代においては、特に女性の転出超過が続いている状況です。

また、合計特殊出生率は国や北海道平均を上回るものの、1.52程度であり、少子化が進む状況となっています。

以上のことから、現在、町では人口減少の進行に、少子化、若者・子育て世代の流出が加わることで、更なる人口減少を招くおそれがあるため、人口減少への対応は待ったなしの状況であります。

#### ② 基本姿勢

現状と課題を踏まえ、住民と共に的確な施策を展開し、人口減少に歯止めをかけるためには、今後の取組において、次の3つの基本姿勢を共有することが重要です。

##### **基本姿勢1** 正確かつ冷静に人口減少問題を認識する

人口減少問題は将来予測されている事態を正確かつ冷静に認識することが必要であります。

##### **基本姿勢2** 対策は早ければ早いほど効果がある

人口減少対策は人口構造そのものを変えていくことであり、効果が現れるまでには長い時間を要します。しかし、早く取り組めば取り組むほど効果が上がることがわかっており、事態への対応を先延ばししないことが必要であります。

##### **基本姿勢3** 「活力を高め、若者が魅力を感じる住環境や雇用・教育環境」を実現する

若者がこのまちに魅力を感じ、「住みたい、住み続けたい」と思い、自らの希望で結婚し、子どもを産み育てることができるような住環境や雇用、教育環境をつくること、それが人口減少の流れをストップさせる基本方策であります。

### ③ 目指すべき将来の方向

若者が魅力を感じる住環境や雇用・教育環境を実現し、深刻な人口減少をストップさせるため、以下6つの方向を提示します。

#### i) 周辺市町へ若者が流出している「人の流れ」を変え、人口流出に歯止めをかける

人口減少の最大要因は若年層の流出にあり、このまま推移すれば、今後も若者の流出が続くものと見込まれ、将来的に町として自治体運営が困難となるおそれがあります。少子化対策の視点からも「人の流れ」を変える必要があります。

#### ii) 「出生率向上」のための阻害要因を取り除く取組を進める

結婚・出産は「個人の自由が最優先」を前提としたうえで、出生数・出生率を向上させるため、このまちに住み、結婚をし、子どもを産み育てたい人の希望をかなえるための環境整備、阻害する要因があれば、その除去に取り組む必要があります。そのため、若者が住み、働き、結婚し、子どもを産み育て、教育をさせたいと思う切れ目のない環境づくりのため、全ての施策を集中させる必要があります。地域や企業の主体的な取組も重要な要素となります。

#### iii) 長期的かつ総合的な視点から有効な施策・事業を迅速に実施する

人口減少に関わる課題は、長期的な視点から考える必要があります。また、社会経済全般に関わることから、子育て支援だけでなく、産業・雇用、高齢者の社会参加、防災対策、医療など総合的な取組が不可欠と考えます。

#### iv) 新たな施策のための財源を将来世代の負担としないために、既存事業の見直しと必要な財源確保を進める

新たな施策・事業の実施で必要とされる費用は、既存事業の見直し等によって対応すべきものであり、人口減少下で新たに多額の債務を抱えて将来世代に負担を先送りすることは避けるべきであり、公共施設の更新や統廃合に係る公共施設等総合管理計画に基づき、効率的な行政運営を推進する必要があります。

#### v) 「選択と集中」の考え方を徹底する

似たような小粒の類似対策を「総花的」に行わず、「選択と集中」の考え方を徹底し、人口減少に即して最も有効な対象に、投資と施策を集中させる必要があると考えます。

#### vi) 高齢者が活躍できる社会づくりを進める

今後も高齢化が進行することから、高齢者がより一層活躍できる社会づくりを強力に進める必要があります。そのことが、「支えられる側」から「支える側」への意識変換につながり、「若者が魅力を感じる住環境づくり」の大きな力となります。

## (2) 人口の将来展望

国の長期ビジョン及び第6期大樹町総合計画における令和15(2033)年の目標人口5,200人を勘案しつつ、目指すべき将来の方向を踏まえ次の考えのもと仮定値を設定し、将来人口を展望します。

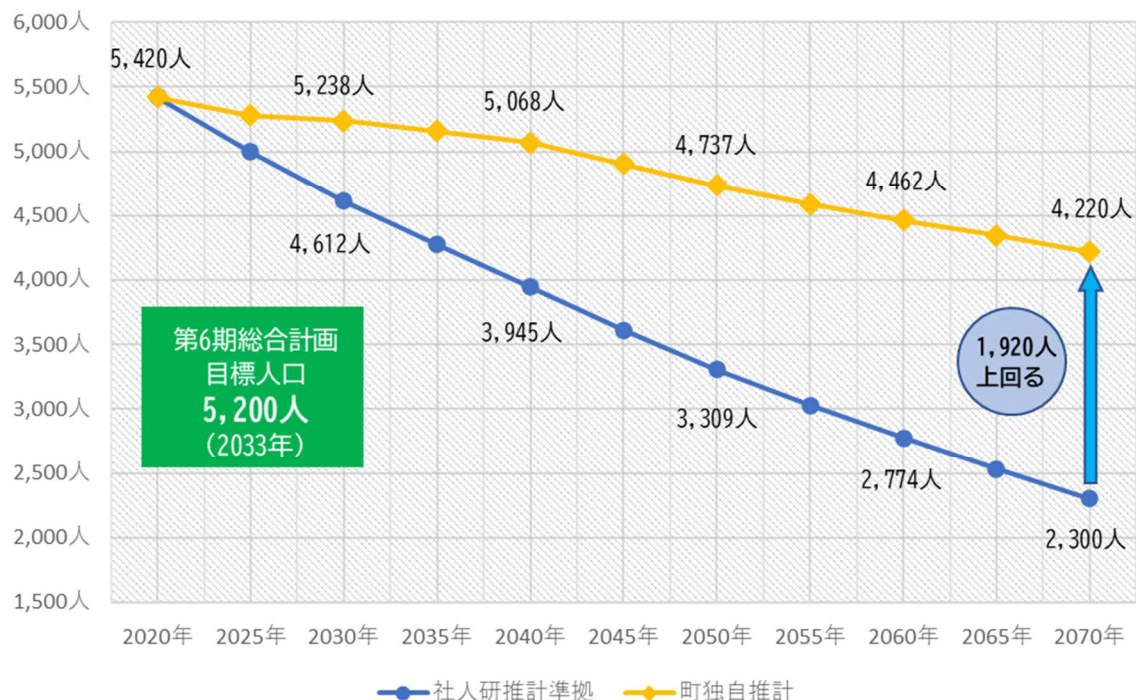
### ① 町独自推計の条件整理

- 自然増減については、現状、大樹町の合計特殊出生率は1.52程度と国や北海道より高い傾向にあり、町や国等の施策効果を踏まえ、令和17(2035)年には人口置換水準である2.07程度まで上昇。
- 社会増減については、現在町が進めている「宇宙のまちづくり」の取組を一層強化し、関連企業等の誘致を積極的に推進すること等により20歳代から40歳代の転入超過が一定程度継続するとともに、町の各種施策の効果が着実に反映されることにより令和12(2030)年には20歳代から40歳代以外の世代においても移動均衡(転出入がゼロ)に達するものとして推計。

### ② 人口の将来展望

以上の条件を踏まえて推計すると、自然増減、社会増減の各種条件を達成した場合には、令和52(2070)年の人口は、社人研推計よりも1,920人多い4,220人となると推計されます。

## 大樹町の人口の将来展望



## ■年齢3区分別の人口推計

### 【大樹町独自推計】

単位：人

区 分	2020年	2030年	2040年	2050年	2060年	2070年
年少人口 0～14歳	612 11.3%	561 10.7%	728 14.4%	608 12.8%	549 12.3%	603 14.3%
生産年齢人口 15～64歳	2,825 52.1%	2,966 56.6%	2,804 55.3%	2,598 54.8%	2,316 51.9%	1,951 46.2%
老年人口 65歳以上	1,983 36.6%	1,711 32.7%	1,535 30.3%	1,531 32.3%	1,597 35.8%	1,666 39.5%
合 計	5,420	5,238	5,068	4,737	4,462	4,220

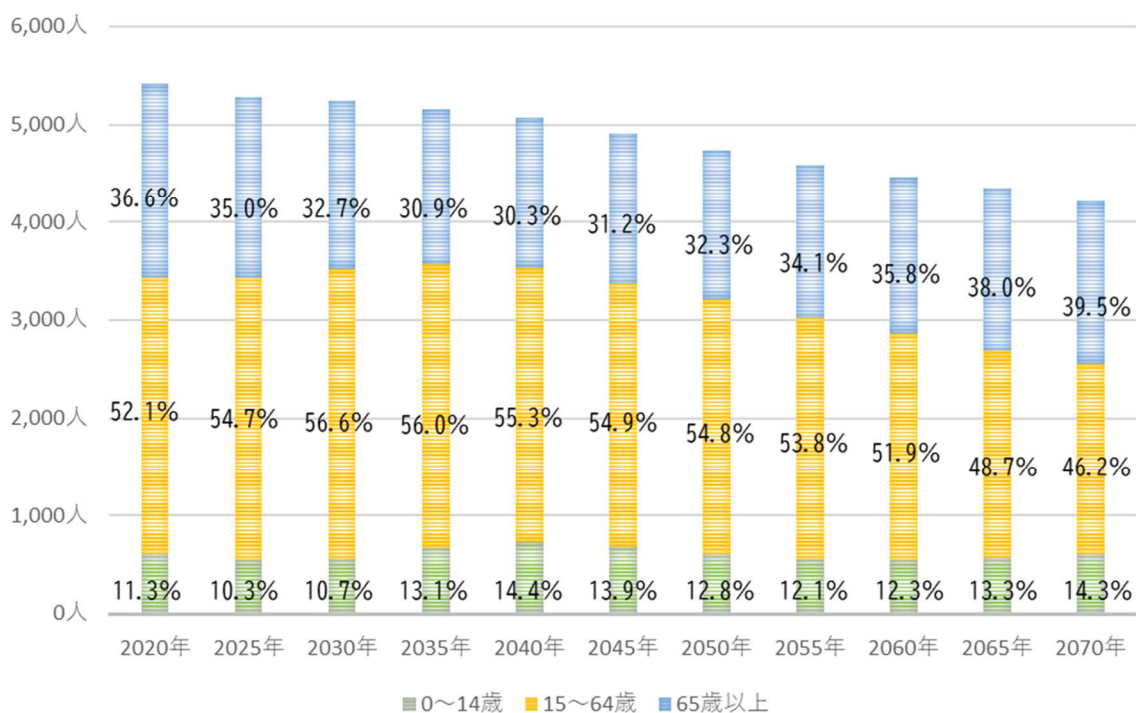
### 【社人研推計】

単位：人

区 分	2020年	2030年	2040年	2050年	2060年	2070年
年少人口 0～14歳	612 11.3%	422 9.1%	366 9.3%	295 8.9%	219 7.9%	174 7.6%
生産年齢人口 15～64歳	2,825 52.1%	2,479 53.8%	2,117 53.7%	1,737 52.5%	1,431 51.6%	1,138 49.5%
老年人口 65歳以上	1,983 36.6%	1,711 37.1%	1,462 37.1%	1,277 38.6%	1,124 40.5%	988 43.0%
合 計	5,420	4,612	3,945	3,309	2,774	2,300

※端数処理により合計が一致しない場合があります。

## 町独自推計における年齢3区分別の人口構成



## 第2章

# 総 合 戦 略

# 1 基本的な考え方

## (1) 趣 旨

我が国は、人口急減・超高齢化という大きな課題に直面しており、これらの課題解決に向けて、平成 26（2014）年 11 月に「まち・ひと・しごと創生法」が成立しました。そして同年 12 月「まち・ひと・しごと創生長期ビジョン」と「まち・ひと・しごと創生総合戦略」が閣議決定されました。「まち・ひと・しごと創生法」においては都道府県・市町村による「地方版総合戦略」の策定が努力義務とされており、本町においても第 1 期となる「大樹町人口ビジョン」と「大樹町まち・ひと・しごと創生総合戦略」を平成 28（2016）年 3 月に策定しました。

また、令和 2（2020）年 3 月には「第 2 期大樹町まち・ひと・しごと創生総合戦略」を策定し、人口減少や地域活性化などの課題に対応するため、地方創生に向けた各種施策を展開してきました。

その後、新型コロナウイルス感染症の拡大やデジタル技術の急速な進展など社会情勢が大きく変化してきていることを背景に、新たに「全国どこでも誰もが便利で暮らせる社会」を目指す「デジタル田園都市国家構想」の実現に向け、デジタルの力を活用しつつ、地域の個性を活かしながら地方の社会課題解決や魅力向上の取組を加速化・深化するため、「まち・ひと・しごと創生総合戦略」を抜本的に改訂した「デジタル田園都市国家構想総合戦略」が令和 4（2022）年 12 月に閣議決定されました。

こうしたことを踏まえ、本町においても、これまでの地方創生の取組をデジタルの力を活用して継承・発展させていくため、「大樹町デジタル田園都市構想総合戦略」（以下「総合戦略」という。）を策定します。

## (2) 総合戦略の位置づけ

本総合戦略は、国や北海道の総合戦略なども勘案しつつ、令和 6（2024）年度から開始した「第 6 期大樹町総合計画」（令和 6（2024）～令和 15（2033）年度）の基本目標を、総合戦略の基本目標として位置づけることとします。

■□■ 総合計画との関係性 □■□

大樹町の最上位計画  
第 6 期総合計画（2024～2033 年度）  
前期実施計画（2024～2028 年度）

総合戦略（2025～2028 年度）  
総合戦略は、総合計画の中から、人口減少への対応や  
地方の魅力向上を目的とする施策を抽出した計画

### (3) 計画期間

本総合戦略の計画期間は、第6期大樹町総合計画・前期実施計画期間の終了年度にあわせ、令和7（2025）年度から令和10（2028）年度までの4年間とします。

	R6 2024	R7 2025	R8 2026	R9 2027	R10 2028	R11 2029	R12 2030	R13 2031	R14 2032	R15 2033
第6期 総合計画	基本構想・基本計画									
	前期実施計画					後期実施計画				
総合戦略	第2期 総合 戦略	デジタル田園都市構想 総合戦略				次期総合戦略				

### (4) 推進体制

デジタル田園都市国家構想総合戦略が、地域の個性を活かしながらデジタルの力によって地方創生の取組を加速化・深化させることを目的としていることを踏まえ、総合戦略の推進にあたっては、地方創生部局とデジタル担当部局をはじめ庁内の各部署が連携して総合的に取り組むとともに、各施策の効果を客観的に検証するため、毎年度、住民や関係機関等で構成する推進組織において PDCA サイクルによる検証・見直しを行います。

### (5) 国の「デジタル田園都市国家構想総合戦略」の概要

【デジタル田園都市国家構想総合戦略の施策の方向】

デジタルの力を活用した地方の社会課題解決

#### ① 地方に仕事をつくる

スタートアップ・エコシステムの確立、中小・中堅企業 DX、スマート農林水産業・食品産業、観光 DX、地方大学を核としたイノベーション創出 等

#### ② 人の流れをつくる

「転職なき移住」の推進、オンライン関係人口の創出・拡大、二地域居住等の推進、地方大学・高校の魅力向上、女性や若者に選ばれる地域づくり 等

#### ③ 結婚・出産・子育ての希望をかなえる

結婚・出産・子育ての支援、仕事と子育ての両立など子育てしやすい環境づくり、こども DX 等のデジタル技術を活用した地域の様々な取組の推進 等

#### ④ 魅力的な地域をつくる

教育 DX、医療・介護分野における DX、地域交通・インフラ・物流 DX、まちづくり、防災・減災、国土強靱化の強化等、地域コミュニティ機能の維持・強化 等

地方のデジタル実装を下支え

デジタル実装の基礎条件整備

#### ① デジタル基盤の整備

デジタルインフラの整備、マイナンバーカードの普及促進・利活用拡大、データ連携基盤の構築、エネルギーインフラのデジタル化 等

#### ② デジタル人材の育成・確保

デジタル人材育成プラットフォームの構築、職業訓練のデジタル分野の重点化、高等教育機関等におけるデジタル人材の育成、デジタル人材の地域への還流促進、女性デジタル人材の育成・確保 等

#### ③ 誰一人取り残されないための取組

デジタル推進委員の展開、デジタル共生社会の実現、経済的事情等に基づくデジタルデバイドの是正、利用者視点でのサービスデザイン体制の確立 等

## （６）持続可能な開発目標（SDGs）の達成に向けた施策の推進

持続可能な開発目標（SDGs）とは、平成 27（2015）年 9 月の国連サミットで採択された、「持続可能な開発のための 2030 年アジェンダ（行動計画）」に基づき、令和 12（2030）年を期限として設定された、17 のゴール（目標）と 169 のターゲットで構成される国際目標です。

SDGs の基本的な考え方は、「経済・社会・環境」の 3 つの側面のバランスが取れた持続可能な社会をつくることにあり、総合的な取組を進めていくことが求められます。

国は、平成 28（2016）年 12 月、「SDGs 実施指針」を決定し、持続可能で強靱かつ誰一人取り残さない、「経済・社会・環境」の統合的向上が実現された未来への先駆者を目指しています。

私たちの日々の生活は、国境や地域を超えて密接に関連しており、SDGs の取組を進めることは、より良い世界や「未来につながるまちづくり」につながります。

本総合戦略では、第 6 期大樹町総合計画と同様、SDGs の要素を取り入れ、地方創生の取組を推進することにより持続可能なまちづくりを進めていくこととします。

### 【SDGs（持続可能な開発目標）】



## 2 総合戦略の基本方針

### (1) 本町の地域ビジョン

本町は「大樹町総合計画」を最上位計画としています。

大樹町において「人口減少の抑制」や「地域特性を活かした活性化」は、まちづくりにおける重要な課題であり、これまで「大樹町総合計画」と「大樹町まち・ひと・しごと創生総合戦略」を一体的に進めてきました。

このことから、本総合戦略においても、引き続き、「大樹町総合計画」が掲げる方向性を共有し、一体的に施策を進めていく必要があることから、本総合戦略における地域ビジョンについては「第6期大樹町総合計画」が掲げる以下の将来像と同様とします。

**人とひと・人と自然・人と宇宙がつながる  
誰にでも居場所のあるまち大樹**

### (2) 第6期大樹町総合計画の施策との関連

#### 【国の総合戦略の方向】

①地方に仕事をつくる

②人の流れをつくる

③結婚・出産・子育ての希望をかなえる

④魅力的な地域をつくる

#### 基本目標1 共に支え合い安心して暮らせるまち

1-1 地域福祉

1-2 子育て支援

1-3 高齢者福祉

1-4 障がい福祉

1-5 保健・医療

1-6 社会保障

1-7 防災

1-8 防犯・交通安全・消費者保護

1-9 消防・救急

①	②	③	④
			●
		●	
			●
			●
			●
			●

#### 基本目標2 誰もが学び続けられるまち

2-1 学校教育

2-2 社会教育

2-3 スポーツ

2-4 文化

①	②	③	④
		●	●
			●
			●
			●

基本目標3 豊かな資源を活かし挑戦を続けるまち	①	②	③	④
3-1 農業	●			
3-2 林業	●			
3-3 水産業	●			
3-4 商工業	●			
3-5 観光	●	●		●
3-6 航空宇宙	●	●		●
3-7 雇用・勤労者対策				
基本目標4 美しい自然と共生する持続可能なまち	①	②	③	④
4-1 環境保全・脱炭素化				●
4-2 ごみ・リサイクル・し尿・環境美化				●
4-3 上下水道				
4-4 道路				
4-5 公共交通		●		●
4-6 公園・緑地			●	●
4-7 住環境				●
4-8 火葬場・墓地				
基本目標5 地域共創やデジタル化が進むまち	①	②	③	④
5-1 コミュニティ・協働		●		●
5-2 交流・移住定住	●	●	●	●
5-3 情報通信・デジタル化				●
5-4 行財政				●
5-5 広域行政				

### (3) DX（デジタル・トランスフォーメーション）の推進

国のデジタル田園都市国家構想総合戦略では、急激な人口減少社会に対応するため、デジタルを最大限活用し、公共サービス等の維持・強化と地域経済の活性化を図ることによる社会変革の実現を求めています。また、地域においても、デジタルの活用が地域社会の生産性や利便性を飛躍的に高め、産業や生活の質を大きく向上させ、地域の魅力を高める力を持っており、地方が直面する社会課題の解決の切り札となるだけではなく、新しい付加価値を生み出す源泉として、地域の個性を活かしながらDX化を進めていくことが求められています。

本町においてもDXに関する基本方針に基づき、人口減少や少子高齢化が進む中で、その課題解決のためにデジタル技術を活用し、公共サービスをはじめ、地域生活の維持、産業分野におけるサービスの効率化や生産性の向上など、行政DXや地域DXを積極的に進めることとしています。

## 基本目標

1

# 共に支え合い安心して暮らせるまち

### 基本的 方向

- 本町に住む誰もが住み慣れた地域で、助け合い、支え合いながら暮らせる地域共生社会の実現を目指します。
- 次代を担う子どもたちの健やかな成長のため、地域全体で子育てを支援する環境づくりを推進します。
- すべての高齢者が住み慣れた地域で、安心して暮らすことができる環境づくりを目指します。
- 地域の中で障がいのある人に対する理解が深まり、障がいがあっても住み慣れた地域で自立して生活できる地域社会の実現を目指します。
- 住民一人一人が自ら健康づくりや疾病予防に取り組み、生涯にわたり健やかな生活を送ることのできるまちを目指します。
- 様々な災害や危険から住民の命と暮らしを守る防災体制の確立と防災対策の強化を図ります。

### 関連するSDGs



	目標指標	R4(2022)年度 実績値	R5(2023)年度 実績値	R10(2028)年度 目標値
数値 目標	出生数【人/年】	35	32	35
	要介護・要支援者数【人/年】	416	405	376

国の方向	③結婚・出産・子育ての希望をかなえる ④魅力的な地域をつくる								
基本目標	共に支え合い安心して暮らせるまち								
施策区分	施 策	重要業績評価指標 (KPI)							
1-1 地域福祉	①地域福祉の総合的な推進 ②福祉の心の醸成 ③相談支援体制の充実	●ふれあいサポーター登録者数【人/年】 <table><tr><td>R4 実績値</td><td>R5 実績値</td><td>R10 目標値</td></tr><tr><td>92</td><td>89</td><td>108</td></tr></table>		R4 実績値	R5 実績値	R10 目標値	92	89	108
R4 実績値	R5 実績値	R10 目標値							
92	89	108							
1-2 子育て支援	①地域における子ども・子育て支援 ②幼児教育・保育の充実 ③仕事と子育ての両立支援 ④子どもが健やかに生まれ育つ環境づくり	●出生数【人/年】 <table><tr><td>R4 実績値</td><td>R5 実績値</td><td>R10 目標値</td></tr><tr><td>35</td><td>32</td><td>35</td></tr></table>		R4 実績値	R5 実績値	R10 目標値	35	32	35
R4 実績値	R5 実績値	R10 目標値							
35	32	35							

	⑤支援が必要な子ども・家庭への支援													
1-3 高齢者福祉	①高齢者福祉の総合的な推進 ②介護予防の充実 ③介護サービスの充実 ④生きがい対策の推進	<b>●要介護・要支援者数【人/年】</b> <table> <tr> <th>R4 実績値</th><th>R5 実績値</th><th>R10 目標値</th></tr> <tr> <td>416</td><td>405</td><td>376</td></tr> </table> <b>●介護予防教室等参加者数【人/年】</b> <table> <tr> <th>R4 実績値</th><th>R5 実績値</th><th>R10 目標値</th></tr> <tr> <td>2,304</td><td>2,467</td><td>2,683</td></tr> </table>	R4 実績値	R5 実績値	R10 目標値	416	405	376	R4 実績値	R5 実績値	R10 目標値	2,304	2,467	2,683
R4 実績値	R5 実績値	R10 目標値												
416	405	376												
R4 実績値	R5 実績値	R10 目標値												
2,304	2,467	2,683												
1-4 障がい福祉	①障がい福祉の総合的な推進 ②社会参加と理解の促進 ③雇用・就労の促進	<b>●福祉的就労支援利用件数【件/年】</b> <table> <tr> <th>R4 実績値</th><th>R5 実績値</th><th>R10 目標値</th></tr> <tr> <td>231</td><td>249</td><td>296</td></tr> </table>	R4 実績値	R5 実績値	R10 目標値	231	249	296						
R4 実績値	R5 実績値	R10 目標値												
231	249	296												
1-5 保健・医療	①健康づくりの推進 ②感染症対策の推進 ③地域医療体制の充実	<b>●特定健康診査受診率【%/年】</b> <table> <tr> <th>R4 実績値</th><th>R5 実績値</th><th>R10 目標値</th></tr> <tr> <td>56.9</td><td>58.1</td><td>60.0</td></tr> </table>	R4 実績値	R5 実績値	R10 目標値	56.9	58.1	60.0						
R4 実績値	R5 実績値	R10 目標値												
56.9	58.1	60.0												
1-7 防災	②地域の防災力の強化 ③防災体制の充実	<b>●災害協定数【件/累計】</b> <table> <tr> <th>R4 実績値</th><th>R5 実績値</th><th>R10 目標値</th></tr> <tr> <td>19</td><td>21</td><td>27</td></tr> </table> <b>●自主防災組織数及び組織率</b> <table> <tr> <th>R4 実績値</th><th>R5 実績値</th><th>R10 目標値</th></tr> <tr> <td>2 団体 2.9%</td><td>2 団体 2.9%</td><td>10 団体 51.9%</td></tr> </table>	R4 実績値	R5 実績値	R10 目標値	19	21	27	R4 実績値	R5 実績値	R10 目標値	2 団体 2.9%	2 団体 2.9%	10 団体 51.9%
R4 実績値	R5 実績値	R10 目標値												
19	21	27												
R4 実績値	R5 実績値	R10 目標値												
2 団体 2.9%	2 団体 2.9%	10 団体 51.9%												

## 基本目標

### 2

## 誰もが学び続けられるまち

### 基本的 方 向

- 家庭・地域と連携し、一人一人の子どもが未来における様々な困難を乗り越え、豊かな人生を切り開く「生きる力」を育むことのできる教育の確立を目指します。
- 住民一人一人の年代や生活スタイルに応じて、個人の生き方や考え方に広がり豊かさをもたらすため、地域と一体となって社会教育の推進を図ります。
- 子どもから高齢者まで、誰もが気軽に参加できるスポーツ・レクリエーション活動の機会拡充に努め、技術の向上と健康増進を図ります。
- まちの伝統や文化財を保護し、確実に後世に伝えとともに、住民一人一人が文化活動に触れることのできる環境づくりを目指します。

### 関連するSDGs



	目標指標	R4(2022)年度 実績値	R5(2023)年度 実績値	R10(2028)年度 目標値
数値 目標	生涯学習センター利用者数 【人/年】	31,155	30,556	35,000
	社会体育施設利用者数 【人/年】	32,794	43,342	44,000

国の方向	③結婚・出産・子育ての希望をかなえる ④魅力的な地域をつくる													
基本目標	誰もが学び続けられるまち													
施策区分	施 策	重要業績評価指標 (KPI)												
2-1 学校教育	④教育環境の充実 ⑤就学支援の充実 ⑥大樹高等学校への支援													
2-2 社会教育	①社会教育施設の充実 ②学習機会の充実 ③学習活動の支援 ④指導者、指導体制の充実 ⑤地域全体で育てる体制づくり ⑥青少年の健全育成	●生涯学習センター利用者数【人/年】 <table border="1"> <tr> <th>R4 実績値</th><th>R5 実績値</th><th>R10 目標値</th></tr> <tr> <td>31,155</td><td>30,556</td><td>35,000</td></tr> </table> ●図書館入館者数【人/年】 <table border="1"> <tr> <th>R4 実績値</th><th>R5 実績値</th><th>R10 目標値</th></tr> <tr> <td>10,234</td><td>10,496</td><td>11,000</td></tr> </table>	R4 実績値	R5 実績値	R10 目標値	31,155	30,556	35,000	R4 実績値	R5 実績値	R10 目標値	10,234	10,496	11,000
R4 実績値	R5 実績値	R10 目標値												
31,155	30,556	35,000												
R4 実績値	R5 実績値	R10 目標値												
10,234	10,496	11,000												

2-3 スポーツ	①スポーツ活動・プログラムの充実 ②クラブ・団体の育成 ③施設の充実・運営 ④支える人材の育成	<b>●社会体育施設利用者数【人/年】</b> <table border="1"> <tr> <th>R4 実績値</th><th>R5 実績値</th><th>R10 目標値</th></tr> <tr> <td>32,794</td><td>43,342</td><td>44,000</td></tr> </table>	R4 実績値	R5 実績値	R10 目標値	32,794	43,342	44,000
R4 実績値	R5 実績値	R10 目標値						
32,794	43,342	44,000						
2-4 文化	③芸術・文化による魅力づくり ④芸術・文化活動の推進 ⑤団体・指導者の育成	<b>●芸術鑑賞及び文化事業数【回/年】</b> <table border="1"> <tr> <th>R4 実績値</th><th>R5 実績値</th><th>R10 目標値</th></tr> <tr> <td>24</td><td>20</td><td>26</td></tr> </table>	R4 実績値	R5 実績値	R10 目標値	24	20	26
R4 実績値	R5 実績値	R10 目標値						
24	20	26						

## 基本目標 3

# 豊かな資源を活かし挑戦を続けるまち

### 基本的 方 向

- 持続可能な農業生産基盤の構築と環境保全や資源循環に対応した生産活動の推進を目指します。
- 計画的な森林整備を進め、森林の持つ多面的・公益的機能を発揮するとともに、資源循環の取組を推進します。
- 漁港や漁場の整備を着実に進めるとともに、漁業資源の適切な管理と養殖漁業を推進します。
- 商工業者の経営の安定化を図るとともに、用地やインフラ整備を進め、企業誘致を推進し、地域活力の向上を目指します。
- 地域資源を活かした体験型観光を推進するとともに、道の駅の機能強化による観光客の誘致拡大を目指します。
- 北海道スペースポートの整備により、企業誘致や新産業創出を促進し、人口増加や地域経済の活性化を目指します。

### 関連するSDGs



	目標指標	R4(2022)年度 実績値	R5(2023)年度 実績値	R10(2028)年度 目標値
数値 目標	観光入込客数【人/年】	46,000	52,700	63,800
	航空宇宙関連企業誘致数 【社/累計】	7	9	10

国の方向	①地方に仕事をつくる ②人の流れをつくる ④魅力的な地域をつくる								
基本目標	豊かな資源を活かし挑戦を続けるまち								
施策区分	施 策	重要業績評価指標 (KPI)							
3-1 農業	⑤経営の改善促進 ⑦生産組織、農業団体の育成 ⑧担い手の育成 ⑨酪農・畜産の振興 ⑩新規作物の開発と産地形成 ⑪環境保全型農業の推進 ⑫鳥獣被害対策 ⑬バイオマスの利用促進	●バイオガスプラント設置数【基/累計】 <table><tr><td>R4 実績値</td><td>R5 実績値</td><td>R10 目標値</td></tr><tr><td>4</td><td>4</td><td>6</td></tr></table>		R4 実績値	R5 実績値	R10 目標値	4	4	6
R4 実績値	R5 実績値	R10 目標値							
4	4	6							

3-2 林業	①計画的な森林整備の推進 ④森林の多面的機能の利用	●町有林植栽面積【ha/年】		
		R4 実績値	R5 実績値	R10 目標値
		9.47	5.49	10.42
3-3 水産業	①漁家経営の体質強化 ②生産基盤の整備 ③増養殖漁業の推進 ⑤遊漁・観光・他産業との調和	●増養殖漁業取扱漁獲量【トン/年】		
		R4 実績値	R5 実績値	R10 目標値
		140	162	165
3-4 商工業	①商業の育成 ②魅力ある商店街づくり ③起業の支援 ⑤企業誘致の推進 ⑥地場産品の開発、研究、製品化に向けた支援	●起業家等支援事業活用件数【件/累計】		
		R4 実績値	R5 実績値	R10 目標値
		10	15	20
		●地場産業振興奨励事業活用件数 【件/累計】		
		R4 実績値	R5 実績値	R10 目標値
		7	8	15
3-5 観光	①体験型観光の推進 ②観光PRの強化 ③観光資源の発掘と活用の推進 ④道の駅の機能充実	●観光入込客数【人/年】		
		R4 実績値	R5 実績値	R10 目標値
		46,000	52,700	63,800
3-6 航空宇宙	①航空宇宙関連実験等の誘致促進 ②航空宇宙ビジネスや実験誘致のための宇宙港整備 ③企業誘致と雇用創出の促進 ④観光客・視察者の誘致 ⑤脱炭素化の促進と農林水産業の発展 ⑥航空宇宙人材の育成 ⑦宇宙のまちづくりの意識づくり ⑧宇宙のまちづくりに向けた活動、ネットワーク化の促進	●ロケット打ち上げ回数【回/累計】		
		R4 実績値	R5 実績値	R10 目標値
		0	2	15
		●航空宇宙関連企業誘致数【社/累計】		
		R4 実績値	R5 実績値	R10 目標値
		7	9	10
		●教育旅行・企業視察受入人数【人/年】		
		R4 実績値	R5 実績値	R10 目標値
		2,000	2,327	10,000
		●製造業による直接雇用人数【人/累計】		
		R4 実績値	R5 実績値	R10 目標値
		70	83	130

## 基本目標

### 4

## 美しい自然と共生する持続可能なまち

### 基本的 方向

- 豊かな自然や雄大な景観など、まちの貴重な財産を守りながら、住民や地域、事業者等と一体となってゼロカーボンシティの実現を目指します。
- ごみの減量化と地球環境への負荷軽減が図られた持続可能な循環型社会の形成を目指します。
- 将来にわたって住民の交通手段を確保するため、誰もが安心して移動できる利便性の高い持続可能な公共交通ネットワークの形成を目指します。
- 住民の多様なニーズや生活様式の変化を踏まえた幅広い世代の住民に利用される公園づくりを推進します。
- 公営住宅の計画的な更新や空き家等の有効活用など、必要な住宅政策を進めるとともに、移住定住を促進する宅地の分譲など、住みよい住環境づくりを目指します。

### 関連するSDGs



	目標指標	R4(2022)年度 実績値	R5(2023)年度 実績値	R10(2028)年度 目標値
数値 目標	一般廃棄物量【トン/年】	1,987	1,918	1,840
	コミュニティバス利用者数 【人/年】	544	2,498	2,750

国の方向	②人の流れをつくる ③結婚・出産・子育ての希望をかなえる ④魅力的な地域をつくる
------	--

基本目標	美しい自然と共生する持続可能なまち
------	-------------------

施策区分	施 策	重要業績評価指標 (KPI)						
4-1 環境保全・ 脱炭素化	①環境保全の意識づくり ⑤脱炭素社会の構築	●太陽光発電システム導入補助件数 【件/累計】						
		<table><tr><td>R4 実績値</td><td>R5 実績値</td><td>R10 目標値</td></tr><tr><td>2</td><td>4</td><td>10</td></tr></table>	R4 実績値	R5 実績値	R10 目標値	2	4	10
		R4 実績値	R5 実績値	R10 目標値				
		2	4	10				
		●街灯の LED 化率【%/年】						
<table><tr><td>R4 実績値</td><td>R5 実績値</td><td>R10 目標値</td></tr><tr><td>48.0</td><td>50.3</td><td>65.0</td></tr></table>	R4 実績値	R5 実績値	R10 目標値	48.0	50.3	65.0		
R4 実績値	R5 実績値	R10 目標値						
48.0	50.3	65.0						

4-2 ごみ・リサイクル・し尿・環境美化	①循環型社会の形成促進（ごみの減量化とリサイクルの推進） ④清掃・美化活動の推進	<b>●一般廃棄物量【トン/年】</b> <table> <tr> <th>R4 実績値</th><th>R5 実績値</th><th>R10 目標値</th></tr> <tr> <td>1,987</td><td>1,918</td><td>1,840</td></tr> </table>	R4 実績値	R5 実績値	R10 目標値	1,987	1,918	1,840
R4 実績値	R5 実績値	R10 目標値						
1,987	1,918	1,840						
4-5 公共交通	②コミュニティバスの利便性向上	<b>●コミュニティバス利用者数【人/年】</b> <table> <tr> <th>R4 実績値</th><th>R5 実績値</th><th>R10 目標値</th></tr> <tr> <td>544</td><td>2,498</td><td>2,750</td></tr> </table>	R4 実績値	R5 実績値	R10 目標値	544	2,498	2,750
R4 実績値	R5 実績値	R10 目標値						
544	2,498	2,750						
4-6 公園・緑地	①公園の整備、維持管理	<b>●公園新規・再編整備件数【件/累計】</b> <table> <tr> <th>R4 実績値</th><th>R5 実績値</th><th>R10 目標値</th></tr> <tr> <td>0</td><td>0</td><td>1</td></tr> </table>	R4 実績値	R5 実績値	R10 目標値	0	0	1
R4 実績値	R5 実績値	R10 目標値						
0	0	1						
4-7 住環境	②住環境の整備促進 ③公営住宅の整備 ④空き家対策	<b>●新築住宅戸数【戸/累計】</b> <table> <tr> <th>R4 実績値</th><th>R5 実績値</th><th>R10 目標値</th></tr> <tr> <td>13</td><td>26</td><td>91</td></tr> </table>	R4 実績値	R5 実績値	R10 目標値	13	26	91
R4 実績値	R5 実績値	R10 目標値						
13	26	91						

## 基本目標 5

# 地域共創やデジタル化が進むまち

### 基本的 方 向

- 住民・事業者・行政がそれぞれの役割と責任を果たす、地域が一体となった協働のまちづくりを推進します。
- 町内外の企業、学校、個人など、多様な人が定期的・継続的にまちに関わりを持ち、地域に暮らす人とつながる仕組みを構築することにより、新たな人の流れの創出と交流人口・関係人口の拡大を目指します。
- Society5.0時代に対応するため、地域内におけるICT化を推進し、住民の利便性向上と行政事務の効率化を目指します。
- 住民生活に最も身近な行政機関として、質の高い住民サービスを提供するとともに、歳入と歳出のバランスが取れた行財政運営を目指します。

### 関連するSDGs



	目標指標	R4(2022)年度 実績値	R5(2023)年度 実績値	R10(2028)年度 目標値
数値 目標	ワーキングステイ住宅・移住 希望者向け住宅利用件数 【件/累計】	14	19	55
	オンライン化した行政手続 きの項目【項目/累計】	0	7	15

国の方向	①地方に仕事をつくる ②人の流れをつくる ③結婚・出産・子育ての希望をかなえる ④魅力的な地域をつくる			
基本目標	地域共創やデジタル化が進むまち			
施策区分	施 策	重要業績評価指標 (KPI)		
5-1 コミュニテ ィ・協働	③コミュニティ活動の促進 ④まちづくり活動への参画機会の拡大 ⑤男女共同参画社会の実現 ⑥多様な主体とのつながりの形成	●地域コミュニティ事業補助件数 【件/年】		
		R4 実績値	R5 実績値	R10 目標値
		26	25	33
		●審議会等における女性委員割合 【%/年】		
		R4 実績値	R5 実績値	R10 目標値
14.0	17.5	24.0		

5-2 交 流 ・ 移 住 定 住	①移住・定住の促進 ②世代間交流の推進 ③地域の特性を活かした交流の推進	●ワーキングステイ住宅・移住希望者向け住宅利用件数【件/累計】 <table border="1" data-bbox="890 264 1385 365"> <tr> <th>R4 実績値</th><th>R5 実績値</th><th>R10 目標値</th></tr> <tr> <td>14</td><td>19</td><td>55</td></tr> </table> ●サテライトオフィス・コワーキングスペース等設置件数【件/累計】 <table border="1" data-bbox="890 427 1385 528"> <tr> <th>R4 実績値</th><th>R5 実績値</th><th>R10 目標値</th></tr> <tr> <td>3</td><td>3</td><td>4</td></tr> </table>	R4 実績値	R5 実績値	R10 目標値	14	19	55	R4 実績値	R5 実績値	R10 目標値	3	3	4
R4 実績値	R5 実績値	R10 目標値												
14	19	55												
R4 実績値	R5 実績値	R10 目標値												
3	3	4												
5-3 情報通信・ デジタル化	①情報通信・デジタル化の普及促進	●オンライン化した行政手続きの項目【項目/累計】 <table border="1" data-bbox="890 618 1385 719"> <tr> <th>R4 実績値</th><th>R5 実績値</th><th>R10 目標値</th></tr> <tr> <td>0</td><td>7</td><td>15</td></tr> </table>	R4 実績値	R5 実績値	R10 目標値	0	7	15						
R4 実績値	R5 実績値	R10 目標値												
0	7	15												
5-4 行財政	③広報・広聴の充実 ⑤公共施設の整備・活用 ⑥ふるさと納税の推進													